

「SPRUC企画委員会 研究会組織検討作業部会」 中間報告書

2013年8月10日

SPRUC 研究会組織検討作業部会

責任者 中川 敦史 (大阪大学)

1. 目的・概要

SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC)の研究会は、SPring-8 のより効果的・効率的な利活用によって各研究分野の発展と測定技術の高度化に貢献していかなければならない。そのためには研究会活動を SPring-8 内外へ積極的にアピールするとともに、研究成果やビームラインに関する情報交換を円滑に行い、多様化するユーザーからの意見集約が可能な組織へと再構築する必要がある。本作業部会はそのような改革のための指針を提言することを目的として設立された。2013年7月12日に部会委員による会合を開催し、現状報告・研究会へのアンケート結果の報告・問題解決に向けた討論を実施し検討を進めてきた。基本的な方向性について以下のとおり意見の一致をみたので、中間的な報告として取りまとめを行うこととした。今後は、最終報告に向けて、残された検討事項を含め更に掘り下げた検討を進めていくこととしたい。

2. 背景・問題点

SPring-8 が 1997 年に供用を開始して以来、サイエンスや産業がより多様化しているのに合わせて SPRUC 会員である SPring-8 のユーザーも多様化してきた。SPRUC は現在約 12,000 名の全ユーザーが参加しており、利用者としての視点で意見の集約ができる学際的組織を目指している。しかし、現状の計 30 の研究会では全ユーザーの研究領域をカバーできておらず、ユーザーの約 75%は研究会に属していない。そのため、将来の放射光施設の高度化計画などに関するユーザー側の意見を汲み上げて施設管理者側 (理研・JASRI) に提言するための機能が不十分である。したがって、SPRUC の研究会組織を早急に改革する必要がある。

3. 提言

- ・具体的な方策 (1)

SPRUC の研究会組織は社会や各学協会に対する説明責任を強く意識しなければならない。外部へアピールしやすく、外部からも見えやすい体制を再構築するべきである。そこで、これまでの9つの分野分けを見直し、4分野に設定する。既存の各研究会は新組織では少なくとも一つの分野への所属を選択してもらい、複数の選択も可能とすることで横断的な研究にも対応させる。

4分野の領域の定義や名称については、既存の研究会の基礎にあるのが研究対象と研究手法である場合の両方があることを考慮すべきであり、「生命科学」「物質基礎」「物質応用」「計測」を提案する。

・具体的な方策 (2)

研究会活動の活性化の一案として、問題解決型の研究テーマを設定し、BL や手法や分野を融合した研究グループを時限付きで創設することを提案する。ここでは、今後発展する見込みがあるにも関わらず解析手法が確立していない未開拓分野に対して SPring-8 の利用を積極的に助長するようなテーマや、利用組織・利用分野の融合を加速するような分野横断的テーマを複数設定することを想定している。

テーマ及びオーガナイザーの設定は重要であるため、今後部会および利用委員会等で十分議論した上で決定すべきである。

・具体的な方策 (3)

より多くのユーザーをカバーするために、産業利用や理研・原研・大学などの各専用ビームラインの関係者が参加できるような研究会の新設を本作業部会や利用委員会が誘導すべきである。また、現在動いている大型研究で SPring-8 に関係している研究領域を呼び込むことで、相乗的な活性化が期待される。

上記の具体的な方策(1)~(3)で述べた新組織案のイメージ図を別紙1に示す。

4. 今後の活動内容

本作業部会は SPRUC の設立目的を果たすための積極的な研究会活動をサポートする役割を担っていく。今後のスケジュールとしては、2013年8月中に中間報告の内容に関するパブリックコメントを募集した上でさらに提言をまとめ、それをベースに9月の SPring-8 シンポジウムのセッションで開催されるパネルディスカッションで公開討論を行う予定である。

5. 作業部会メンバー

部会責任者	中川 敦史 (SPRUC 利用委員長・大阪大学)
委員 (敬称略、五十音順)	梶山 千里 (福岡女子大学)
	川上 善之 (エーザイ株式会社)
	佐藤 衛 (SPRUC 利用幹事・横浜市立大学)
	壽榮松 宏仁 (東京大学)
	鈴木 謙爾 (東北大学)
	月原 富武 (兵庫県立大・大阪大学)
	福山 秀敏 (東京理科大学)
	松井 純爾 (兵庫県立大学放射光ナノテクセンター)

中間報告
別紙1

- ・研究グループは「生命科学」「物質基礎」「物質応用」「計測」の4つの分野の少なくとも1つに所属する。
- ・全ユーザーが参画できるようにいくつか研究会を新設する。
- ・戦略的なキーワードに沿った活動計画を募集し、時限付きで分野融合型の研究会グループを結成

